

## 2021 年 5 月果実概況

全国的に気温高、特に北・東・西日本はかなり高かった。東日本日本海側は少雨だった。

5 月は平年に比べ気温は高く晴れの日が多く、過ごしやすい日が続いたが、中旬以降は曇雨天が続き、九州産地を始め四国・西日本・近畿・東海地方は平年より早い梅雨入りとなった。

果実全体の入荷量は前年比 108%、価格 454 円(前年比 96%)。5 月に入ると中晩柑類・いちご類が減少し、西瓜・メロンや、季節先取りするハウス物の品種が日々に増量した。りんごは「有袋ふじ」の販売に切り替わり、大幅減だった前年に比べ平年並みの貯蔵量で潤沢な出回り。

ハウスみかんは入荷 144%、価格 1,359 円(95%)。佐賀産は好天を受け、平年に比べ増。愛知産は前年に比べ少なく、生育前進から 5 月の出荷量は前年の倍近くに。その流れから全体量は大幅増も、「母の日」からみで引合いは強かった。

かんきつ類は入荷 90%、価格 312 円(107%)。「甘夏柑」は熊本・愛媛産は寒波による品質不良から、当初計画より減少。広島産「レモン」も同様に大幅な下方修正がなされ、貯蔵物の出回りは減った。「不知火」「カラ」は下旬に差し掛かると順次終了した。

りんご類は入荷 149%、価格 283 円(57%)。5 月も「サンふじ」の残量多く、「有袋ふじ」との並行販売となった。「王林」「ジョナゴールド」の黄色系品種も潤沢にあり、平年並みの出回り。価格は不作で貯蔵量の少なかった前年に比べ安、平年においても約 2 割安となった。

びわは入荷 124%、価格 1,600 円(104%)。主力長崎・千葉産ともに出荷ペースは前進傾向にあり、上旬にピークを迎えた。前年を上回る出荷量も、「母の日」需要から価格はほぼ前年並み。

いちご類は入荷 87%、価格 929 円(99%)。前進出荷が続いた中、九州産地は 5 月上旬で終了。関東産地は徐々に出荷量が減少傾向に入る。東北産地においても下旬から減少したが、入荷は平年並み、価格は前年・平年並みだった。

おうとうは入荷 135%、価格 5,029 円(103%)。ハウス物中心。4 月の気温高から生育は前進傾向で各産地が出揃う。山形産の増量ペースは早まるも、「母の日」需要で荷動きは良い。下旬に入ると山形産露地物の早生種が出荷始まり、数量増も前年並みの価格で推移した。

メロン類は入荷 117%、価格 519 円(106%)。前半は「アンデスメロン」、後半は「クインシーメロン」が中心。各品種、好天のため生育前進傾向。下旬には「タカミメロン」が販売開始。肥大良く玉流れは大きいのが、荷動きは前年に比べ良く、「アールスメロン」においても下旬からやや引合い強まる。

すいか類は入荷 115%、価格 297 円(106%)。大玉すいかは熊本産が生育前倒しで 4 月中～下旬にピークを迎え、5 月は微減も、千葉産も同様に前進推移で前年の 2 倍以上の入荷。西日本から南は梅雨入りをしたが、関東地方は 5 月中に梅雨入りを迎えず、気温高から販売は好調だった。

**国産マンゴー**は入荷90%、価格4,968円(142%)。生育順調で出荷済み、また早い梅雨入りの影響で出荷量は減少。前年コロナ禍の影響で、PK中心に末端の販売が広がり引合いは強く、前年以上の価格で推移した。

**【輸入果実】**キウイは入荷84%、価格531円(112%)。「サンゴールド」は生育順調も、「グリーン」の日本向けが生育遅れのため、平年に比べ少ない出回り。パイナップルは入荷131%、価格218円(114%)。前月に引続き台湾産が大幅増。